

研修区分表

科目・教科	研修時間				到達目標・講義の内容・演習の実施方法 実習実施内容・通信学習課題の概要等
	通学	通信	実習	計	
1 職務の理解 (6時間)	6			6	(到達目標) ◎これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような仕事を行うか、具体的なイメージを持って実感し、以降の研修に実践的に参加できる
(1) 多様なサービスの理解	3			3	(講義) ①介護保険制度の下でのサービス ②介護保険外のサービス
(2) 介護職の仕事内容や働く現場の理解	3			3	(演習) 施設見学 ①居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ②居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ③一連の業務の流れとチームアプローチ、他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会の資源との連携
2 介護にける尊厳の保持・自立支援 (9時間)	9			9	(到達目標) ◎介護職が、利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点、及びやってはいけない言動例を理解できる
(1) 人権と尊厳を支える介護	4			4	(講義) ①人権と尊厳の保持 ②ICF(国際生活機能分類) ③QOL(生活の質) ④ノーマライゼーション ⑤虐待防止・身体拘束禁止 ⑥個人の権利を守る制度の概要
(2) 自立に向けた介護	3			3	(講義) ①自立支援 ②介護予防
(3) 人権に関する基礎知識	2			2	(講義) ①人権に関する基本的な知識 ②同和問題等
3 介護の基本 (6時間)	6			6	(到達目標) ◎介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対策のうち、重要なものを理解している ◎介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉えることができる
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携	2			2	(講義) ①介護環境の特徴の理解 ②介護の専門性

				③介護に関わる職種
(2) 介護の職業倫理	1		1	(講義) ①介護職の職業倫理
(3) 介護における安全の確保とリスクマネジメント	2		2	(講義) ①介護職における安全の確保 ②事故予防、安全対策 ③緊急時に必要な知識と対応方法 ④感染症対策
(4) 介護職の安全	1		1	(講義) ①介護職の心身の健康管理
4 介護・福祉サービスの理解と医療との連携 (9時間)	9		9	(到達目標) ◎介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる
(1) 介護保険制度	2		2	(講義) ①介護保険制度創設の背景と目的・動向 ②介護保険制度の仕組みと基礎的理解 ③介護保険制度の財源・組織・団体の機能と役割 ④医療保険制度の概要 ⑤年金保険制度の概要
(2) 医療との連携とリハビリテーション	4		4	(講義) ①高齢者の服薬と留意点 ②経管栄養・吸引・吸入・浣腸など ③健康チェック ④訪問看護 ⑤リハビリテーション医療の意義と役割 ⑥リハビリテーション医療の過程
(3) 障害者総合支援制度及びその他の制度	3		3	(講義) ①制度創設の理念・背景と目的 ②制度の仕組みと基礎的理解 ③個人の権利を守る制度の概要
5 介護におけるコミュニケーション技術 (6時間)	6		6	(到達目標) ◎高齢者や障害者のコミュニケーション能力は、1人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションをとることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限のとるべき(とるべきではない)言動例を理解している
(1) 介護におけるコミュニケーション技術	3		3	(講義) ①コミュニケーションの意義と目的、役割 ②コミュニケーションの手段と方法 ③利用者・家族への対応の基礎知識 ④利用者・家族への対応の実際 ⑤利用者の状況・状態に応じた対応 (演習) ◎ロールプレイングを用いて利用者の障害や状況にあった声かけ

				の方法を習得する
(2) 介護におけるチームのコミュニケーション	3		3	(講義) ①記録による情報の共有化 ②報告・連絡・相談 ③コミュニケーションを促す環境 (演習) ◎カンファレンスやサービス担当者会議の場面を想定し、疑似体験をおこなう
6 老化の理解 (6時間)	6		6	(到達目標) ◎加齢や老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している
(1) 老年期の発達と老化に伴う こととからだの変化と日常生活	3		3	(講義) ①老年期の発達と心身の変化の特徴 ②老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響
(2) 高齢者と健康	3		3	(講義) ①高齢者の疾病(老年症候群)と生活上の留意点(外科系) ②高齢者に多い病気と日常生活上の留意点(内科系)
7 認知症の理解 (6時間)	6		6	(到達目標) ◎介護において、認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断基準となる原則を理解している
(1) 認知症を取り巻く状況	1		1	(講義) ①認知症ケアの理念
(2) 医学的側面から見た 認知症の基礎と健康管理	2		2	(講義) ①認知症の概念と原因疾患・病態 ②原因疾患別ケアのポイントと健康管理
(3) 認知症に伴うことと からだの変化と日常生活	2		2	(講義) ①認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ②認知症利用者への対応
(4) 家族への支援	1		1	(講義) ①家族への支援・レスパイト
8 障害の理解 (3時間)	3		3	(到達目標) ◎障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している
(1) 障害の基礎的理解	1		1	(講義) ①障害の概念とICF ②障害者福祉の基本理念
(2) 障害の医学的側面、 生活障害、心理、行動の 特徴、かわり	1		1	(講義) ①肢体不自由(身体障害) ②内部障害 ③視覚障害・聴覚障害 ④音声・言語・咀嚼機能障害 ⑤精神障害 ⑥統合失調症 ⑦躁うつ病等

				⑧神経性障害(神経障害) ⑨アルコール依存症 ⑩知的障害 ⑪発達障害 ⑫ダウン症 ⑬高次脳機能障害
(3) 家族の心理、かかわり、支援の理解	1		1	(講義) ①家族の心理・かかわり支援
9 ころとからだのしくみと生活支援技術 (75時間)	75		75	(到達目標) ◎介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得する。また、安全な介護サービスの提供方法を理解し、基礎的な一部介助・全介助等の介護が実施できる ◎尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる能力を発揮してもらいながら、その人の在宅・地域等での生活を支える介護技術・知識を習得する
(1) 介護の基本的な考え方	2		2	(講義) ①倫理に基づく介護(ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除) ②法的根拠に基づく介護
(2) 介護に関するころのしくみの基礎的理解	3		3	(講義) ①学習と記憶に関する基礎知識 ②感情と意欲に関する基礎知識 ③自己概念といきがい ④老化や障害を受け入れる適応行動と阻害要因 ⑤ころの持ち方が行動に与える影響 ⑥からだの状態がころに与える影響
(3) 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	6		6	(講義) ①人体の各部の名称と動きに関する基礎理解 ②骨、関節、筋肉に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用 ③中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ④自律神経と内部器官に関する基礎知識 ⑤ころとからだを一体的にとらえる ⑥利用者の様子の普段との違いに気づく視点 (演習) ◎老人体験スーツ・片麻痺障害者スーツの着用により、老人・障害者を理解する。
(4) 生活と家事	3		3	(講義) ①生活と家事 ②家事援助の基礎知識と生活支援 ③家事援助の方法(調理・掃除・洗濯等)
(5) 快適な居住環境整備と介護	3		3	(講義) ①快適な居住環境に関する基礎知識 ②高齢者・障害者特有の居住環境整備 ③福祉用具に関する留意点と支援方法
(6) 整容に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護				(講義) ①整容に関する基礎知識 ②整容の支援技術

	6		6	(演習) ◎衣服の着脱 パジャマ上下・トレーナー・浴衣(ねまき) 座位・臥位(片麻痺設定)
(7) 移動・移乗に関連した ところとからだのしくみと 自立に向けた介護	6		6	(講義) ①移動・移乗に関する基礎知識 ②移動・移乗のための用具と活用方法 ③負担の少ない移動・移乗と支援方法 ④移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 ⑤移動と社会参加の留意点と支援 (演習) ◎ボディメカニクスの原理を活用した介護方法 ◎杖・歩行器・車椅子の種類と合わせ方・活用法 ◎褥瘡の知識と予防 ◎体位の種類と安楽姿勢 ・上方移動 ・水平移動 ・仰臥位⇔側臥位(寝返りの介助) ・仰臥位⇔端座位(起き上がりの介助) ・端座位⇔立位(立ち上がりの介助) ・ベッド⇔車椅子移乗 ・杖、歩行器を使用しての歩行介助 ・視覚障害者の歩行介助 ・車椅子での移動(室内・外出)
(8) 食事に関連したところと からだのしくみと自立に 向けた介護	6		6	(講義) ①食事に関する基礎知識 ②食事環境の整備と用具と活用方法 ③楽しい食事を阻害するところとからだの要因と支援方法 ④食事と社会参加の留意点と支援 ⑤口腔ケアに関する基礎知識 (演習) ◎嚥下機能を感じる体操 ◎食事介助の実際 ◎口腔ケアの実際 ・嚥下しやすい姿勢・嚥下しにくい姿勢 ・色々な介助方法(座位・臥位) ・トロミ体験 ・含嗽法・ブラッシング・口腔清拭 ・健口体操(口腔体操)
(9) 入浴・清潔保持に関連 したところとからだのしくみ と自立に向けた介護				(講義) ①入浴と清潔保持に関する基礎知識 ②入浴と整容の用具と活用方法 ③楽しい入浴を阻害するところとからだの要因と支援方法 ④目・鼻腔・耳・爪等の清潔方法 (演習) ◎入浴介助の方法と実際

	6		6	<p>◎全身清拭の介助方法と実際</p> <p>◎部分浴介助の方法と実際</p> <p>◎細部の清潔に関する介助と実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴用具別の介助(機械浴・リフト浴・一般浴) ・福祉用具を活用しての浴槽の出入り ・全身清拭、部分清拭、タオルの絞り方、持ち方 ・手浴・足浴・洗髪(ケリーパッド作成・使用)
(10) 排泄に関連した こころとからだのしくみ と自立に向けた介護	6		6	<p>(講義)</p> <p>①排泄に関する基礎知識</p> <p>②排泄環境の整備と用具の活用方法</p> <p>③爽快な排泄を阻害するこころとからだの要因と支援方法 (演習)</p> <p>◎ポータブルトイレ・尿器・便器・おむつの種類と介助の実際</p> <ul style="list-style-type: none"> ・おむつ体験 ・車椅子でトイレに向かい、排泄介助を行う ・端座位⇄ポータブルトイレ介助 ・ベッド上での尿器・差込み便器への介助 ・ベッド上でのおむつの装着とおむつ交換の介助 ・陰部洗浄の方法(ディスポ手袋の着脱練習) ・骨盤底筋体操(尿失禁予防)
(11) 睡眠に関連した こころとからだのしくみ と自立に向けた介護	6		6	<p>(講義)</p> <p>①睡眠に関する基礎知識</p> <p>②睡眠環境と用具の活用方法</p> <p>③快い睡眠を阻害するこころとからだの要因と支援方法</p> <p>④ベッドメイキングに必要な基礎知識と方法 (演習)</p> <p>◎ベッドと和床(布団)の利点と欠点についてグループで話し合い 利用者にとって安眠できる環境について考える</p> <p>◎寝具の種類・整え方</p> <p>◎ベッドメイキング</p>
(12) 死にゆく人に関連した こころとからだのしくみ 終末期介護	5		5	<p>(講義)</p> <p>①終末期に関する基礎知識</p> <p>②生から死への過程とこころの理解</p> <p>③苦痛の少ない死への支援と多職種との連携 (演習)</p> <p>◎事例を用いて、死に至る過程に沿いながら、その場面に応じた 声かけの方法や援助のしかた、身体的な注意などを考えながら 学ぶ</p>
(14) 介護過程の基礎的理解	6		6	<p>(講義)</p> <p>①介護過程の基礎的理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・科学的思考と介護過程 ・介護過程の展開に必要な構成要素 ・介護過程とチームアプローチ <p>(演習)</p> <p>◎事例(イラスト)を見てアセスメントを行う 個人ワーク、グループワーク、発表等を通して理解を深める</p>

(15) 総合生活支援技術演習	6			(講義) ①事例による展開 (演習) ※ICFの視点に立って ※片麻痺の事例(テキスト掲載の事例を使用) ①仰臥位から端座位への体位変換、衣服の着脱、移動・移乗 上記事例のアセスメントを行い、介護計画を作成してみる。 また、①衣服着脱、②移動介助、③食事介助、④排泄介助 ⑤入浴介助の場面について日常生活支援を行う場合、どのような視点で介助を行えば良いのか、そして何故そのような介護が必要なのか、根拠について考え記述する。 また、グループワークや発表等を通して理解を深める。
(6)～(11)基本的技術の振り返り	5			(演習) 介護する側、される側にたつて、これまで学んだ技術を復習する
10 振り返り	4			(到達目標) ・研修全体を振り返り、当該研修で学んだことの再認識を行うとともに就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる
(1)振り返り	2			(講義) ①研修を通して学んだこと ②今後も継続して学んでいくこと ③根拠に基づく介護の重要性の再確認 (演習) ・振り返りチェックシート(テキスト第2巻 322頁)による確認
(2)就業への備えと研修修了後における継続的な研修	2			(講義) ①職場での現状を把握するとともに、就業後も継続して自己学習を進め自己研鑽する重要性を認識し再確認する

※講義と演習は一体的に実施すること。「目標、内容等」は目次を設けてわかりやすく記載すること。

なお、科目9の(6)から(11)の実技演習は、実技内容等を記載すること。

※時間配分の下限は30分単位とする